

令和6年度 病害虫発生予察情報

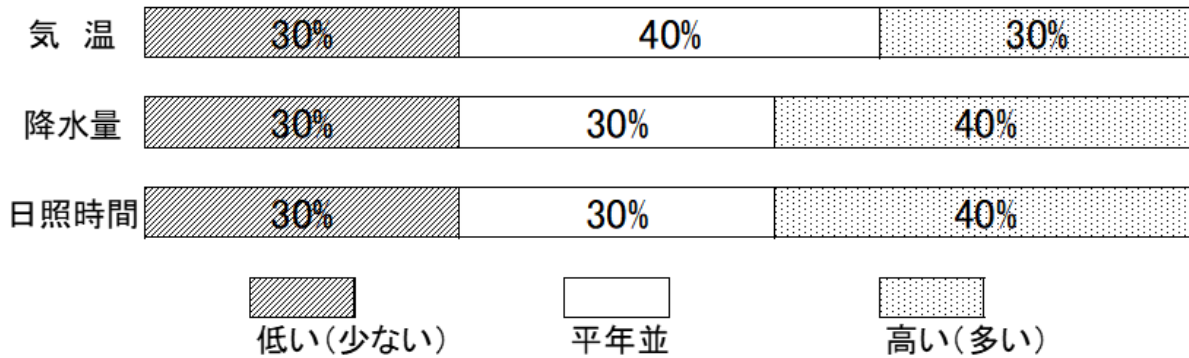
発生予報第3号（6月）

令和6年5月31日
島根県

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 予想発生量 |
|------|------|---------------|----------|
| 普通作物 | イネ | ヒメトビウンカ | 平年並 |
| | | ニカメイチュウ | やや少ない |
| | | イネミズゾウムシ | 平年並 |
| | | セジロウンカ | 平年並 |
| 果樹 | ナシ | 黒斑病 | 平年並～やや多い |
| | | 黒星病 | 平年並～やや多い |
| | | シンクイムシ類 | やや多い |
| | | ハマキムシ類 | 平年並 |
| | | ハダニ類 | 平年並 |
| 野菜 | カキ | カキタアザミウマ | 平年並 |
| | タマネギ | ボトリクス属菌による葉枯れ | 多い |
| | | べと病 | 平年並 |
| | | 腐敗病・軟腐病 | 平年並 |

中国地方1か月予報(6月1日～6月30日・広島地方気象台5月30日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第6半旬まで認めていない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年7.4%）、捕獲数は0頭/50株（平年0.2頭）と発生量は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月3日（平年5月7日）で平年並み、5月半旬までの誘殺数は9頭（平年23.6頭）で平年に比べてやや少ない。
- ② フェロモントラップへの飛来は4月30日（平年4月21日）で平年に比べてやや遅く、5月第5半旬までの誘殺数は21頭（平年105.7頭）と平年に比べてやや少ない。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯では3頭（平年13.6頭）と平年に比べてやや少ない。フェロモントラップでは14頭（平年52.4頭）とやや少なく越冬量は少ないと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

| | |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 発生時期 | 平年並 |
| 発生量 | 平年並 |

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は27.2%（平年23.6%）と平年並みで、捕獲数は0.86頭/50株（平年0.54頭）と発生量は平年並みである。
- ② 予察灯への初飛来は5月5日（平年5月4日）と平年並みである。5月第5半旬までの誘殺数は4頭（平年26.4頭）と平年に比べて少ない。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は99頭（平年78.9頭）と本年の越冬量は平年に比べて多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) セジロウンカ

予報内容

| | |
|------|------|
| 発生地方 | 県内全域 |
| 飛来時期 | 平年並 |
| 発生量 | 平年並 |

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認めていない。
- ② 5月下旬の巡回調査で、発生を認めていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

| | |
|------|--------------|
| 発生地方 | 県内「二十世紀」栽培地帯 |
| 発生量 | 平年並～やや多い |

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.9%（平年1.0%）と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

| | |
|------|----------|
| 発生地方 | 県内ナシ栽培地帯 |
| 発生量 | 平年並～やや多い |

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0%（平年0.1%）と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

| | |
|------|----------|
| 発生地方 | 県内ナシ栽培地帯 |
| 発生時期 | 平年並 |

発生量 やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月8日と平年並みである。
- ②フェロモントラップでのナシヒメシンクイの5月第6半旬までの誘殺数は91頭（平年37.1頭）とやや多い。
- ③前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ④向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月8日と平年並みである。
- ②フェロモントラップでのハマキムシ類の5月第6半旬までの誘殺数は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。

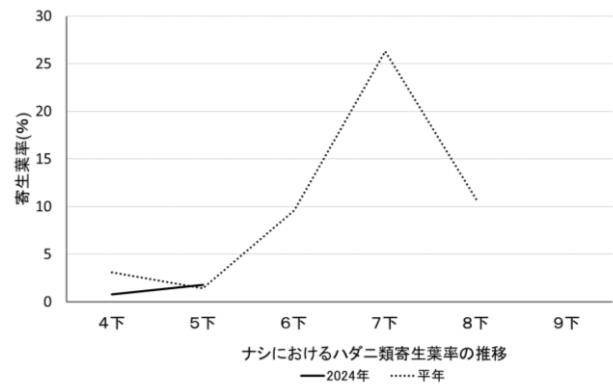
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は少ない。
- ②5月下旬の巡回調査（安来市）では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.8%（平年1.4%）と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月14日に本種による巻葉被害を確認した。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率44.4%（平年13.7%）、発病株率3.1%（平年0.6%）と、発生量は平年に比べて多い。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率83.3%（平年68.5%）、発病株率36.0

%（平成 20.7%）と、発生量は平成並みである。
②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
注）令和5年度 病害虫発生予察情報 注意報 第3号 参照。

（3）腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平成並

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 38.9%（平成 45.5%）、発病株率 2.4%（平成 4.2%）と、発生量は平成並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp